

觀察の地方色

(三)

冬季に於ける觀察科

大分幼稚園

一、觀察の目的

A、知的陶冶を目的とする場合

- 1、觀念の蓄積
- 2、誤れる觀念の訂正
- 3、思想の陶冶
- 4、感官言語思考作用

B、情意的陶冶を目的とする場合

- 1、審美の養成
- 2、持續せる注意を強盛にして實行意志の陶冶

三、冬の觀察材料

- 1、地方的のもの
 - 2、動的で變化の多いもの
 - 3、結果の鮮明なもの
 - 4、想像に豫猶のあるもの
 - 5、興味の多いもの
 - 6、幼兒の活動範圍の廣いもの
 - 7、感覺的のもの
 - 8、美感を興ふるもの
 - 9、表現の可能なるもの
 - 10、季節に關連を取れるもの
 - 11、行動の模範となれるもの
- 1、家庭……家族、火鉢、炬燵、火災
- 2、通信 郵便、電信、電話、ラヂオ

二、觀察材料の選擇の標準

- 3、お正月の玩具、餅搗
 - 4、冬休み
 - 5、お正月のお話……お飾、越年、お祝
 - 6、晝、夜、雪、寒氣
 - 7、師弟、朋友、一般人
 - 8、水仙、梅に鶯、冬の野菜
 - 9、範元節、日本の國體
 - 10、桃とお節句……雛様、人形、お供物
 - 11、陸軍記念日
 - 12、學校遊び
 - 13、卒業式
- 四、觀察科の取扱ひ
- 1、問答的に取り扱ふ場合
 - 2、暗示的に取扱ふ場合
 - 3、自由に觀察させる場合
 - 4、目的の指示をなして觀察させる場合
 - 5、説明の補充にする場合

- 6、經驗の整理をなす爲めに課する場合
 - 7、模倣の材料にする場合
 - 8、書き方、手技、談話、唱歌と連絡をとる場合
- 五、取扱ひの實際

雪

今日は大變寒いね、なせこんなに暗いのだらうと見て居る間に段々暗くなつて來た、冷い風は障子の隙間から遠慮なく入つて來る、あ、先生雪だ、大粒な雪がぱら／＼落ち出した、雪だ／＼と喜んで飛び歩く子供や、雪やこんこと聞きおぼへた歌をうたふ子供もあつた、皆窓によりて珍らしそうに外の景色をながめてゐる。雪はます／＼烈しく降つて來た、今まで見えて居た縣廳の松の木はもう見えない、藤棚の上も、檜の上も、お屋根の上も綿帽子をかぶつた様になつた。先生美しいなあ雪は何時降り止むのでせうと、歸りを心配する子

供もあつた、そんなに長くは降らない、今にお天氣になると言つたら、安心して元氣で、お室の中を飛んでゐた、其時數人の子供が庭へ下りて行つた、他の子供の騒いでゐる間に、澤山雪を集めて歸つて來た、箱を出し與へると、皆其上に乗せてあゝ冷たかつた、雪は卓上に高く積まれた、そして皆其の周圍に集つた、先生美しいなあ、眞白だなあと段々先へよつて手に取つて冷たいなあ、解け出した、お鼻の上に乗せてふざけるものや、火鉢に入れて水になつたと喜ぶ箱の角より、二三滴しづくが落ちたあらお室の中は温かいから、雪が

解け出したと暫くの間は餘念なく子供の集めて來た雪を持つて遊んだ、雪は白い冷い、熱にあへば解けてしもう、此の實驗を思ひ／＼に行つた、すんだ頃は空がだん／＼明るくなつて、やさしいお日様がお顔を見せてゐた、雪兎が作りた、雪だるまが作りた、もう駄目だと、残念がつてゐ

る者もあつた、小鳥のお家の上も藤棚の上も、お屋根の上も、今までの雪は何處へやらまるで雨でも降つた様に雨だれが落ちてゐる、先生お繪を畫きませう、僕書けますよ、繪を書くもののお唱歌を歌ひませうと、取り／＼に楽しく遊んでゐた、最後に雪の談話をして歸した。

各期に於ける幼兒の觀察

察について

島根縣師範學
校附屬幼稚園 富田八千穂

當園にて從來實際に行つて來ました幼兒の觀察についての保育方案を、一覽表にまとめて見ました。成るべく、實物實際の觀察であらねばならぬと考へまして、自然界、人事界に其材料を取りました。子供は子供ながらに、色々なものに目をつけますが、其注意は極くまとまらない、ほんや